

授業科目	インターンシップ				実務家教員担当科目	○		
単位	2	履修	選択	開講年次	2	開講時期 前期		
担当教員	高野 基子							
授業概要	<p>当科目は、企業、官公庁、諸機関など実際の職場で就業体験する教育プログラムであるインターンシップを通じて、当学科での学びに自分なりの方向性を付与するとともに、自らの職業観、勤労観を構築することを目的とします。</p> <p>実務家教員として、インターンシップの意義や取り組み方をわかりやすく解説します。</p> <p>※受講者が希望する企業で就業体験できる機会を保証する授業ではありません。</p> <p>※就職そのものや自らの適性について考えを深める授業です。</p> <p>授業開催日の詳細は第1回目授業で伝えます。前半の3ヶ月を就業体験に向けた社会人としての基礎知識、基本マナー等の学修にあて、座学の授業は6回です。</p> <p>残りの7回～15回の授業は現場のインターンシップで充当します。</p> <p>8月上旬から9月中旬に、インターンシップ生受入れ可能企業へ各自3日間程度のインターンシップに参加し、研修事後報告書を提出します。</p>							
授業形態	対面授業			授業方法	グループワーク、ディスカッション			
学生が達成すべき行動目標								
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 社会人基礎力を向上させつつインターンシップへの参加目的を明確化し、実際の就業に向けた基礎的な知識やスキルを獲得し、発揮することができる。 インターンシップを通じて、働くことの意味・将来やりたいことについて考えることができる。 本学での学びと自己の職業観を深化させ、適性を生かしたキャリアデザインについて考えることができる。 							
理想的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 自らの進路について具体的なイメージ・目標を持ち、目標達成に必要な能力・価値観の醸成を行い、実現に向けて自発的に行動できるようになっている。 自己の職業観を整理・確認し、インターンシップ期間中に現代社会の勤労観とのすり合わせを行い、自己の働き方を考えられるようになっている。 インターンシップ体験から自らの課題を認識すると共に、さらなる成長につなぐことができる。 社会人になるうえで必要な基礎能力の開発ができている。 							
評価方法・評価割合								
評価方法	評価割合(数値)			備考				
試験	0							
小テスト	0							
レポート	40%			毎回授業の振り返り				
発表(口頭、プレゼンテーション)	40%			授業で提示する課題についての口頭発表と受講態度				
レポート外の提出物	0							
その他	20%			練習用履歴書の提出(10%)、研修事後報告書の提出(10%)				

授業回数が限られることもあり、就職課とも連携しながら主体的に情報を取得していきましょう。実際の就業体験時には、しばしば社会常識を問われることが生じるため、新聞を毎日読み、社会の動向について理解を深めてください。

※授業計画は、受講者数や講義の進行状況によって変更することがありますので、あらかじめご理解ください。

